

令和3年4月23日

南の風 396

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

先日、ミニバス男子のゲームを観て感じたことです。南の風で取り上げた、クリティカルモーメントのところでも触れた、コーチの『ベンチワーク』についてです。

仮にAチーム、Bチームとします。Aチームは6年生がオングコートに3人で、他は5年生以下で、サイズがBチームに勝ります。Bチームは全体に小柄で、6年生が1人、あとは5年生以下です。1Qから差がつかず展開していき、4Qに入ります。Aチームが拮抗していた流れを破り、リバウンドからの速攻で7点差をつけます。（32対25でAチームがリード、残り時間2分15秒）

ここでBチームがタイムアウトを取ります。再開後オールコートのプレスを掛けます。ボールマンにプレスをして運びを制限する作戦です。この戦術がはまり、ダブルチームからのパスカットが決まり、ドリブルシュートで得点します。5点差になります。Bチームはさらにプレスを続けて、インバウンド passerをプレスします。ボールはパスインしますが、ボールをドリブルでキャリーした選手が捕まり、パスを焦って再びパスカットされます。得点され3点差になります。（残り時間1分15秒）

続けてBチームはオールコートでプレスを掛けます。Aチームはロングパスを狙いますが、これもカットされドリブルからゴール下まで運ばれ1点差に詰め寄られます。残り時間は45秒です。

ここでAチームはタイムアウトを取ります。タイムアウトのコーチの指示内容は分かりませんが、プレス対策（ボール運びとエントリーの仕方）とオフェンスの指示であったと思います。

タイムアウト明けBチームはプレス続行です。ここで私は、Aチームのボール運びを注視しました。エンドラインスローアーがガードの選手にパスします。ガードの選手に運ばせようとする作戦です。このパスは繋がります。ドリブルで運びフロントコートに入ろうとした時に、ボディアップしていたディフェンスが気になったのか、自分の足にボールを当ててしまいアウトオブバーンズとなり、Bチームのボールになります。

ここで残り時間20秒となります。Bチームはスローインからスクリーンを使ってドライブします。ペイントに進みシュートに持ち込みます。Aチームのディフェンダーがたまらずファウルをします。ドリブルシュートが決まり、プラスワンショットを得ます。これも沈め逆転し2点差とします。

そのまま試合は終了し、Bチームの逆転勝利です。

結果や、バスケットボールのプレーで起こるミスにフォーカスしても仕方ありませんから、『ベンチワーク』に注目して、私の考えを書きます。（4Qに限定します）

Aチームが7点リードをしたところで、Bチームのタイムアウトはやや遅い気もします。なぜなら、相手のサイズから、リバウンドの優劣を考えると5点差で取った方がいいと思います。

しかし、自チームのプレスを含めたディフェンス力やオフェンス力を信じるなら、7点差まで引っ張るものありかなと思います。このあたりはベンチの判断によります。

結果的にオールコートプレスがはまり、追い上ることになります。選手はプレスに自信があるように感じられました。追い込み方やダブルチームの仕掛けはタイミングが良かったです。